



志木中だより



3月号 平成29年3月1日

志木市立志木中学校

志木市柏町 3-2-2

TEL 048-471-0143

URL <http://www.shikichu.ed.jp/>

傷のあるりんご

校長 飯田 寛

寒が過ぎ、日ごとに日差しが明るさを増してきています。そここの梅の木も、可憐な紅白を装い、春間近を感じさせるこの頃です。平成28年度もあと1カ月を残すのみとなりました。このひと月は、県公立入試、三送会、卒業式、新1年生の体験入学、修了式・・・と1年のうちでも一番慌ただしい時期となります。生徒には、1年間のまとめと進級・進学への新たな思いを胸にしっかりと過ごし、平成28年度を締めくくってほしいと思っています。



もう随分と前の話、私が学生だった頃から、“極端に傷つくことを恐れる若者”の存在が社会現象として話題になっていました。そして、その傾向はその後加速的に進行し、失敗や挫折をなるべく避けて通ろうとしたり、傷つけ合うことを恐れるあまり人間関係をうまく結べなくなったり自ら拒否したりする若者が増えつつあります。あまり近寄りすぎるとお互いがお互いを傷つけてしまうので、常にある一定の距離をとっての関係にまたイライラする、「ハリネズミのジレンマ」という社会心理学的な用語も冠せられるくらいです。失敗し挫折し、傷つき、自信をなくすことは誰にとっても喜ばしいことではありません。

しかし、です。失敗や挫折のない人生なんてどこにあるのでしょうか。そんなのは偽物です。ことを受験に限っても、たとえ不合格に終わったとしても、自分の行く学校は自分にとって一番よい学校だと、胸を張って入学するよう励ますのが大人の役目です。生徒たちは、今後様々な経験をする中で人生そのものを学んでいきます。特に若い時にこそ汗を流さないと、年をとってから涙となって出るものです。

人生は勝者のいないゲームです。私たちの闘いはいつも敗者復活戦なのです。いつも勝ち続けてきた人間の挫折の不幸は、人のよく知る所です。勝ったり負けたりしながら、時には何度も何度も負け続けながら、涙の裏側に“心の耐性と優しさ”を自ら育て上げていくのが人間だと私は思っています。「傷のあるリンゴ」ほど甘いものなのです。

決して勝ち続けることのできない人生、たとえ幸福な一日があっても、すぐ別の翌日が訪れます。だとすれば、それを楽しむくらいの前向きな気持ちと風雨に打たれ強い鈍感力とを身につけて生きていってほしいと心から願います。この一年間の本校に対するご理解とご協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。